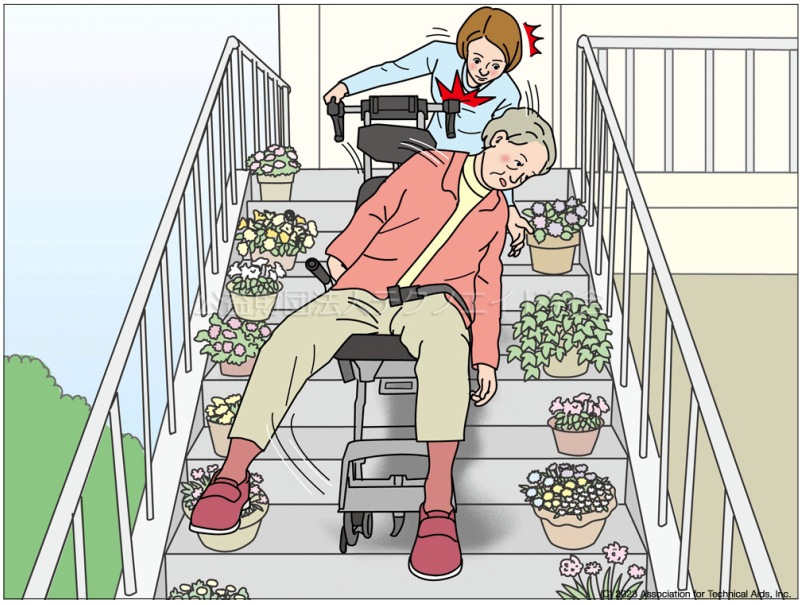
福祉用具ヒヤリハット情報

Case：388

可搬型階段昇降機（リフトアップ式）を操作中、本人の姿勢を支えようと手を伸ばしたら、昇降機が前方に傾いた

場面の説明

本人の座位が崩れてしまい直そうと後ろから手を伸ばしたら、昇降機のハンドルを胸で押し出してしまい、前方に傾きそうになった



利用シーン	階段の昇り降り
主な利用場所	階段
介護保険の種目	移動用リフト（つり具の部分を除く）
分類コード(CCTA95)	183012(自走式階段昇降機)
介護テクノロジー	－
二次元バーコード	

解説

リフトアップ式の可搬型階段昇降機の座面は簡易的な形状のものが多く、座位の崩れやすい利用者では注意が必要です。ベルトの使用は任意となっている場合もありますが、必要性を検討しましょう。座位が崩れた際に後ろから手を伸ばすとハンドルを前方に押し出す形となり危険です。必ず安全な状態で静止させ、横に回って修正します。このような対応のために階段上には障害となるようなものを置かないように管理しましょう。

参考要因

人：股関節が固く、座位が崩れやすい心身機能状態であった
人：本人の身体状況の変化に気が付かなかった
人：ほかに外出の手段がなく無理をしてしまった
モノ：椅子の座面が小さかった
環境：階段の左右に花が置いてあり、横からのサポートが出来なかった

Copyright 2000-2012 Association for Technical Aids, Inc. All rights reserved.